

肺炎球菌の予防接種を受けられる方へ

1. 肺炎球菌について

肺炎球菌は健康な方、高齢者、あるいは種々の基礎疾患（心臓・呼吸器の慢性疾患、腎不全、肝機能障害、糖尿病等）を有する方の肺炎の起炎菌として最も重要で、慢性呼吸器感染症、敗血症、髄膜炎などの原因ともなります。

肺炎球菌には 93 種類の血清型があり、「ニューモバックス NP（23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）」は、そのうちの 23 種類の血清型に効果があります。また、この 23 種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の 64%を占めるという研究結果があります。

（病原微生物検出情報 IASR2018 年 7 月号 「成人侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）症例の臨床像の特徴と原因菌の血清型分布の解析」を参照）（厚生労働省 HP より引用）

このワクチンの接種後 5 年間は効果が持続するとされています。再接種の際は、前回接種から十分な間隔をあけたうえで、医師の判断となります。過去 5 年以内に本剤を接種されたことのある方は、再度接種した場合、注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副反応が、初回接種よりも頻度が高く、程度が強くと報告がありますので、接種歴を必ず確認して受けてください。

2. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和 2 年 10 月 1 日以降適応されます。一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

3. 次の方は接種を受けないで下さい

- ① 過去に肺炎球菌ワクチンを接種し、5 年以上経過していない方
- ② 明らかに発熱している方
- ③ 重い急性疾患にかかっている方
- ④ 肺炎球菌ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある方
＜アナフィラキシー反応とは＞
**急激に起こる じんま疹、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害
血圧低下 等のショック症状**
- ⑤ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方
（予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります）
- ⑥ 妊婦または妊娠している可能性がある方

4. 次の方は接種前医師にご相談下さい

- ① 心臓血管系、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、及び発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後 2 日以内に発熱があった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状があった方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 肺炎球菌ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こすおそれがある方

5. 肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

1回0.5mlを筋肉又は皮下に注射します。再接種は5年以上の間隔をあけてください。

6. 接種後の副反応

発熱、悪寒、倦怠感等を認めることがありますが、通常2～3日中に消失します。また接種部位の発赤・疼痛・掻痒感、腫脹、熱感等を認める場合がありますが、これも通常2～3日中に消失します。

非常にまれですが、次のような副反応を起こすこともあります。1) アナフィラキシー様反応、2) 血小板減少、3) 知覚異常、ギランバレー症候群等の急性神経根障害、4) 蜂巣炎、蜂巣炎様反応、注射部位壊死、注射部位潰瘍。何か異常を認めた場合には、すぐに医師に申し出てください。

7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。
(入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。)
- ② 肺炎球菌を接種したことが分かる専用のシールをお渡しします。
保険証カバー・手帳・定期入れ等に貼付して、既に当ワクチンを接種したことを明らかにして下さい。十分な間隔を確保しない再接種を避ける為に重要です。
- ③ 接種後は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状（高熱、けいれん等）を呈した場合は、下記にご連絡下さい。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター